

国民本位の政策を実現するため 連帯を求めて党勢拡大に全力で取り組む



私たちの代表として、国政に尽力する女性国会議員。今月号で紹介する衆議院議員・猪口邦子さんは、大学教授や国際政治学者としての経歴を政治の場に生かし、少子化対策から外交問題まで幅広く取り組んでいます。

家族の朝食とお弁当を作り 議員活動をスタート

猪口さんは、毎朝6時前には起床し、バレエストレッチで体をほぐしてからキッチンへ。家族の朝食を支度し、お弁当を作ります。「お料理をするのが好きで、お弁当は、必要に応じて家族や自分のために作ります。冷めてもおいしく、栄養バランスの良い和食のお弁当は、世界にも発信したい日本の文化です」と猪口さん。

夫と子供を見送り、自宅を出るのは7時30分頃。ふだんは8時からの党の部会へ出席しますが、この日は部会がないため、議員会館の事務所へ直行。猪口さんは前日夜に北京での核軍縮の国際会議から帰国したばかりで、その出張報告書を作成しました。

9時に議員会館から埼玉県朝霞市にある社会福祉法人どろんこ会「朝霞どろんこ保育園」へ向かいます。主査を務める新少

Profile

- 1952年 千葉県生まれ
- 1975年 上智大学外国語学部卒業
- 1981年 上智大学法学部助教
- 1982年 エール大学政治学博士号取得(Dr.D.)
- 1983～1984年 ハーバード大学国際問題研究所客員研究員
- 1985年 オーストラリア国立大学政治学部客員教授
- 1990～2002年 上智大学法学部教授
- 2002～2004年 軍縮会議
- 2003年 日本政府代表部特命全権大使
- 2003年 軍縮会議(ジュネーブ)議長
- 国連第1回小型武器中間会議議長
- 2004～2006年 上智大学法学部教授
- 2005年 日本学術会議会員(政治学)
- 衆議院議員選挙(比例代表・東京ブロック)で初当選
- 2005～2006年 内閣府特命担当大臣(少子化対策・男女共同参画)
- 2006～2007年 党幹事長補佐(外交・国際関係担当)
- 2007年～現在 党国際局局长代理

現在の主な役職

衆議院外務委員会委員、日本学術会議会員(政治学)、党国際局局长代理、党東京都支部連合会女性部長、新少子化対策研究会主査、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)会長

主な著書

「戦争と平和」「戦略的平和思考」「くじら」他

私のある一日

- 5:45 起床
- 6:20 家族の朝食や弁当作り
- 7:30 議員会館へ
- 8:00 北京での軍縮の国際会議の出張報告書を作成
- 9:00 埼玉県朝霞市に向かう。車内で、携帯電話へのメールサービスの原稿を作成
- 10:00 朝霞どろんこ保育園を視察
- 12:10 党の東京都支部連合会23区女性部長会に出席
- 14:30 議員会館でホームページ制作の打ち合わせ
- 15:30 丸の内で、三菱一号館復元記念内覧会に出席
- 16:30 丸の内で、党勢拡大の依頼と打ち合わせ
- 17:15 議員会館にて論文を仕上げ、英文エディターに連絡
- 19:00 支援者との財政・金融政策の勉強会に出席
- 21:30 帰宅
- 23:30 就寝

秘書からひとこと

秘書 斎藤久代さん



ラッピングを一層華やかに、わくわくするものにしてくれるリボン。色鮮やかなもの、パステル調のもの、水玉模様のもの、ブランド名入りのもの。リボンを大切に保存している方も多いと思います。もちろん私もその一人です。箱にきれいに納め、大切にしていますが、上手に再活用できずにいます。

議員はリボン好き 書類整理に再活用して 合理的にエコを実践

このリボンが事務所では邦子流で大活躍しています。どのように？ そう、書類整理です。「少子化関連」「条約関連」、あるいは次回の講演資料と仕切りは様々ですが、ここ数カ月に必要なものはそれぞれリボンで束ねておきます。すぐに取り出せ、簡単に追加でき、実に合理的。見た目もちょっとかわい。これがリボンファイル。他に、折り紙ファイルなるものもあり、身近なものを上手に生かして、エコを実践。代議士は「脳活整理法」なる著書にまとめたいとのこと。その時はぜひ、ご一読くださいませ。

子化対策研究会における活動の一環です。「どの子も素足でどろんこになって遊んだり農業体験をしていました。自然からい

ろいろなことを全身で学び、成長していくのですね」と視察から得た実感を語ります。現場の意見を反映した政策を研究会の

最終報告書に盛り込みたいと、猪口さんは執筆に取り組んでいます。

多忙な一日を終え

24時には就寝

12時10分から14時まで、東京・上野駅近くで開催の東京都支部連合会23区女性部長会に東京自民党の女性部長として出席。その後、議員会館に戻り、自身のホームページをより充実させるための打ち合わせをしました。

15時30分から丸の内にて、三菱一号館復元記念内覧会に出席。三菱一号館は明治27年（1894）、丸の内に初めて誕生したオフィスビルで、当時の柱の彫刻や赤レンガなど細部に至るまで忠実に復元され、来年4月には美術館として開館される予定

です。芸術や文化に造詣の深い猪口さんは、ビジネスの中心地に新しく誕生する文化施設を見て、「ビジネスと文化の新たな復活を象徴する出来事」と感動

し、その役割に期待を寄せています。内覧会後、引き続き丸の内にて支援者に会い、党勢拡大の依頼と打ち合わせをしました。党员募集と党勢の拡大は猪口さんが最重要課題の一つとして取り組んでいる活動です。国民本位の政策を実現するとともに、党の改革を進めるためには、多くの支援者や仲間との連帯が必要との強い思いから、有権者へ入党を呼びかけているのです。

17時15分からは議員会館で、猪口さんのライフワークでもある核軍縮・核不拡散に関する論

エピソード こんな話、あんな話

猪口さんは、姿勢を美しく保ち、体調を整えるため、毎朝、クラシックバレエをアレンジしたバレエストレッチをします。そして、家族にお弁当を作り、自分もそれを手に文京区の自宅から永田町の議員会館まで、週に1回ほど40～50分かけてウォーキングします。しかし、途中でダウンして地下鉄に乗ることもあるとか。「スニーカーを履いて、日傘を差して、お弁当を持って“お腰に付けたきびだんご”みたいに歩いている人を見かけたら、それは多分、私です」と、猪口さんは笑顔で話してくれました。

文を英語で執筆。19時から支援者たちとの財政・金融政策の勉強会に出席しました。帰宅後は家族とのだんらんのひととき。家事や新聞・資料の整理をすませて、23時30分に就寝。猪口さんは、睡眠の質を高めるため、日をまたがない24時間には眠るようにしています。翌日に疲れを残さないよう体調を整え、新たな明日に臨む猪口さんです。

これまでの活動から

党員・党勢拡大に全力投球
携帯電話に“手のひらメール”

「与党でなければ目指す政策の実現はできない。そのためには、選挙で勝利すること」と猪口さん。初当選以来、一人でも多くの支援者や仲間を増やすため、多彩な活動を続けています。

その一つが、携帯電話だけへのメール配信サービスです。猪口さんが直接支援者の手のひらにある携帯電話へ情報を配信する仕組みで、名付けて「手のひらメール」。簡単に登録できるよう、猪口さんの名刺などにはイラスト付きのQRコードが記載され、登録者が一日20人を超す日もあり、人気が高まっています。また、10人ごとのグループで開くお茶会など、常に身近な場所で国政報告や意見交換のできる時間を積極的に設けています。

初代少子化対策・男女共同
参画担当大臣として活躍



社会福祉法人どろんこ会「朝霞どろんこ保育園」を視察

初当選した平成17年(2005)、猪口さんは内閣府特命担当大臣(少子化対策・男女共同参画)に就任しました。「全身全霊で取り組んだ311日間でした」と振り返る猪口さん。子育て支援の充実と、男女の働き方の改革を実現するため、週末もほとんど休むことなく全国を訪ね、訴えました。そして、初代大臣として総合的な少子化対策の体系となる「新しい少子化対策」をとりまとめ、政府決定しました。現在は、大臣在任中の経験と人脈を生かして、少子化対策や男女共同参画への的確な政策提言を続けています。

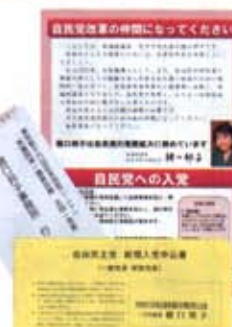
四半世紀にわたるライフワーク
世界平和と核軍縮への取り組み

猪口さんは議員になる前から、国際政治学者として核軍縮に取り組んでいます。国際政治の最大の課題は「戦争を防ぐこと」と猪口さん。その研究書「戦争と平和」は平成元年(1989)に吉野作造賞を受賞しました。

猪口さんは、戦争を防ぐには軍事拡大を抑止すること、そのためには核兵器の不拡散の徹底と核軍縮が必要と考えています。国際政治学者として、また軍縮会議日本政府代表部特命全権大使として、国連会議などの議長も務め、軍縮を推進してきました。議員の道を選んだのも、そうした知識と経験を政策に反映させ実現するためです。当選以来4年間、衆議院の外務委員会に所属し、核兵器廃絶を目指して活動を続けています。



国連第1回小型武器中間会議議長として、アナン国連事務総長(当時)と会談(2003年)



入党を呼びかけるチラシ・申込書・封書の3点セット

「数値目標を掲げるのではなく、子育てしやすい社会への変革を」

— 少子化対策に積極的に取り組まれていますね。

猪口 少子化の背景には、子供を産み育てにくくなった社会状況があります。若い世代の経済的不安、仕事と育児の両立の困難さ、男性の長時間労働、母親の孤独感や疎外感、将来への希望が持てないなど様々な要因が複合して表出した現象なのです。

内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）は、小泉内閣が初めて専任で設けました（2005年）。国民の暮らしや社会のあり方にかかわる「社会政策」を、戦後日本の政治課題であった「安全保障政策」、「経済政策」と並ぶ第3の軸として位置付けたのです。

私は初代の担当大臣としての任期を終えましたが、重要な課題ですから、ライフワークとして間断なく取り組んでいます。昨年には党の同志と新少子化対



策研究会を立ち上げ、さらなる少子化対策の提言書をまとめました。ニーズと実現の可能性が高い政策案を提言しています。

— 合計特殊出生率は、平成20年に1・37に上がりました。

猪口 これは女性一人が生涯に産む子供の平均数を示す数値で、大臣に就任した平成17年（20

05）に1・26と過去最低を記録しました。そこから3年連続で上昇し、この改善幅は過去40年で最高なのです。奇跡の回復と言えます。

ただし、私がお伝えしたいのは、数値目標の達成を求めているのではないということ。結婚や出産は個人の状況や考えによる

ものですから、数値目標を押し付けて生きにくい社会にはいきません。子育てしたい人の希望が叶う社会を願うだけです。— 今後は、どのような活動をお考えですか。

猪口 少子化対策は男女共同参画を通じて進めていくことが大切です。仕事優先の企業風土や男性の意識など「働き方の改革」も必要なのです。こうした対策の積み重ねが、結果的には数値の改善につながります。

子育てをする世代、特に若い人は本当に大変です。家計的にも職務的にも負担が大きい。働く母親も子育てとの両立で困難な立場にいます。社会政策の充実はこの時代の議員に託された大きな仕事です。特に私は初代担当大臣としての責任もありますから、これからも日本の若い世代、女性、子供、家族のために働く議員であり続けます。